

フランスから巖谷家の
ふるさとを訪ねて

巖谷小波文芸賞 特別賞受賞作家
マリーヌ・ペコニー氏



▲フランス語で刊行された『小波御伽噺』
を手にするマリーヌ・ペコニー氏

フランスにおける本格的な巖谷小波研究および『小波御伽噺』フランス語訳刊行の功績が評価され、今年巖谷小波文芸賞特別賞を受賞されたマリーヌ・ペコニー氏が7月23日、巖谷家の故郷である水口を訪れ、『巖谷一六小波記念室』や巖谷一六旧居跡などを巡りました。

近代児童文学の創始者である巖谷小波は、水口出身の書家巖谷一六を父に持ち、水口と深い関わりがあります。

記念室で職員の説明を受けながら、展示されている一六や小波の資料を熱心に見学され、特に当時の子どもたちが代わる代わる読んでぼろぼろになった小波の本に、歴史を感じる事ができたと感動した様子で話されていました。

伝承されてきた「けんか祭り」

大原祇園祭



▲本殿前で激しく灯籠をぶつけ合う

7月23日から24日にかけて、甲賀町鳥居野の大鳥神社の古式大祭である「大原祇園」が行われました。

県の無形民俗文化財に指定されているこの祭りは、市内各地で行われる「祇園花行事」の中で最も大規模で、内容も激しいことから「けんか祭り」とも言われています。

23日の宵宮では、美しい透かし彫りを施された木製の「灯籠」が各地より行列となって大鳥神社に集まり、それを境内で掛け声に合わせてぶつけ合います。激しく壊れる灯籠に歓声が上がっていました。

また、24日に行われた「花奪い」では、真っ赤な造花を付けた「花蓋」が楼門前を駆け抜け、警護の男衆に激しく叩かれ倒されると、厄祓いになると言われている花を、参集された人々がもみ合うようにして取り合っていました。

きりがみで家紋うちわをつくろう

2012夏休みこども教室

切り紙で地域にゆかりの武将や、自分の家の家紋を作成し、それを貼り付けたオリジナルうちわを作る教室が、水口歴史民俗資料館と土山歴史民俗資料館でそれぞれ7月28日、8月4日に行われました。

この教室は、家紋を知ることや地域の歴史に興味を持ってもらうと市教育委員会と資料館が小学生を対象に企画したものです。

水口藩主加藤家の家紋「下がり藤」をはじめ、各家の家紋など3種類の切り紙に挑戦し、子どもたちは、様々な文様の家紋に歴史を感じ取っていました。



▲車の車輪を図案化した家紋「源氏車」に挑戦

夏祭りの
出し物を通して交流

甲南第一小学校

せせらぎ苑で7月29日に開催された夏祭り、甲南第一小学校5年生12名が、恒例のステージ発表や似顔絵入りのうちわの配付を行い、入所者の方と交流しました。

ダンスなど多彩な発表が行われるステージのトップバッターとして、リコーダーやピアノ演奏、マジックで会場を盛り上げました。その後、「いつまでもお元気で」という言葉を添えたうちわに、その場で似顔絵を描いてプレゼントし、交流を行いました。



◀似顔絵入りのうちわをプレゼント

入所者の方は、練習を重ねた美しいハーモニーに耳を傾け、また、特徴を捉えたかわいらしい似顔絵に目を細めていました。

大相撲力士に

豆力士が挑戦

7月30日から8月2日までの間、大相撲三保ヶ関部屋の力士によるふれあい水口合宿が行われました。

同部屋の一団は、水口スポーツの森ロッジで合宿しながら、子どもたちの交流や福祉施設の訪問などを行いました。

今年は2年ぶりの開催ということもあり、朝早いこが行われる綾野小学校には早朝から多くの市民が詰めかけました。

また、練習の終わりには地域の小学生を中心とした子どもたちと取り組みが行われ、豆力士たちは、全力でぶつかっても全く歯が立たない力士に圧倒されながらも、最後はみんな力で合わせて勝利を収めることができました。

信楽高原鐵道
開業25周年記念事業



▲ユニークなデザインのラッピング列車

ラッピング列車が運行開始

信楽高原鐵道開業25周年を記念したラッピング列車が7月29日から運行を開始し、同日、出発式が信楽駅構内で行われました。

当日は、びわ湖放送でおなじみのキャラクター「カイツブリ」に記念列車に乗る「カイツブリ」列車の運行や駅前広場でのイベントもあり、多くの親子で賑わっていました。

記念列車は、甲賀市で知名度の高い「信楽」「甲賀流忍術」「東海道の宿場」を一体的に取り入れたデザインで、成安造形大学2年生の田淵真喜さんと同3年生の川又江梨花さんが考案しました。

今後、新たな観光資源として、また、親しみを持たれる公共交通として活躍します。

三保ヶ関部屋ふれあい水口合宿



▲参加した子どもたち全員で挑む